

令和3年（2021）

■ 7月15日（木）（つづき）

② 第2区（南側の調査区）の調査

昨年度の調査面第3層（地表面から約120 cm）から4層（約140 cm）にかけての調査を実施しました（写真1・2）。



写真1 第3層の調査



写真2 第4層の調査

令和3年（2021）

4 層になると湧水量が増加しつつ、遺物量も増えてきました（写真3・4）。遺物は縄文時代後期後葉安行1式新～安行2式古を中心としています。



写真3 第4層の遺物出土状況（1）



写真4 第3層の遺物出土状況（2）

令和3年（2021）

さらに4層下部とした層になると（写真5）、やや大型の破片や半完形の個体がブロック状に集積している様子も見られました（写真6・7）



写真5 第4層下部の調査



写真6 大型の土器破片

令和3年（2021）



写真7 大型の土器破片

なお、本層の北西隅の1m四方から勾玉や丸玉が3点、立て続けに出土しており、局所的な出土率の高さに驚かされました（写真6の中央上、写真8）。



写真8 勾玉

令和3年（2021）

この4層中は炭化物や焼獣骨片が多かったため、掘り上げた土を水洗いしたところ、タイ科と思われる魚の歯や炭化した堅果類らしきものなどが複数見つかりました。